

課題1 南海トラフ地震の評価手法高度化と他地域への展開研究

新たなN-netの観測データも活用し、南海トラフ地震想定震源域の三次元地下構造モデルの精緻化や震源決定精度の向上を図るとともに、北海道・三陸沖など他地域へも展開する。また、ゆっくり滑りの推移評価手法を確立するとともに、将来起こりうる南海トラフ地震発生シナリオを構築することで、より現実的な複合災害シナリオや事前対策検討に繋げる。

気象庁検討会 & 地震調査委員会

地域レジリエンス研究会

南海トラフ & 千島・日本海溝

ニーズ

地震活動・固着滑り情報・応力評価

1a: 陸海観測データを用いた地震活動モニタリング

陸域及び海域の定常観測による連続データと三次元地下構造モデルを用い、南海トラフ域及び日本海溝・千島海溝域において、従来よりも高精度な通常の地震及びスロー地震活動の自動モニタリングを実現する

1b: 陸海測地データにもとづくプレート境界の準リアルタイムモニタリング・推移評価

プレート境界の固着・すべり状態を陸海の複合測地データから時間方向にシームレスかつ準リアルタイムで把握するプロトタイプシステムを構築し、次に発生しうる地震の規模やその広がり拘束を与える。

1c: 地震履歴情報に基づく南海トラフ巨大地震の発生シナリオ構築

歴史記録、陸上地質記録と海域地質記録それぞれの分析媒体の特徴を活かし、時間軸を揃えた統合解析を行うことにより、先史時代から現代まで一気通貫した南海トラフ巨大地震の発生履歴を評価し、将来起こり得る南海トラフ巨大地震の発生シナリオ提案を行う。

南海トラフ

地震発生履歴 & 将来の発生シナリオ

ニーズ

地震本部（長期評価等） & 内閣府防災

より現実的な複合災害シナリオ & 事前対策検討